

史泉

第四十三号

戦国初期の摂津国人層の動向……………鶴崎 裕雄 (1)
——芥川城主能勢氏とその文芸、特に連歌を中心として——

武内宿禰伝説の伝承者について(上)……………塚口 義信 (37)
——概括的スケッチとして——

北条政子 ——その政治性を主題として……………水沼夫左栄 (64)

ブリュースの人文地理学体系と方法……………橋本 征治 (1)
——ブラーシューとの比較による批判と展望——

昭和四十五年度史学科卒業論文題目……………(86)

関西大学史学会大会のご案内

昭和四十六年度関西大学史学会大会を左記のとおり開催いたしますので、会員諸氏はふるって御参加下さい。

日時 十二月四日(土) 十時二十分から五時まで

会場 関西大学 視聴覚特別教室

発表 個人研究および公開講演

(細目は追ってお知らせします)

大会終了後、ひきつづいて懇親会を学内において催します。

なお、本大会での研究発表を希望される方は、できるだけ早く申し込んで下さい。

会 告

日本学術会議第九期会員選挙にあたり、本会は次のとおり推薦団体となりましたので、ここに御報告いたします。

第一部全国区(史学) 候補 井上智勇氏

推薦団体

日本西洋史学会
日本西洋古典学会
史学研究会
広島史学研究会
関西大学史学会
橘女子大学

あとがき

◇本年四月から、地理学および東洋史の専任教員に次のとおり移動があった。

◇地理学では、新たに織田武雄教授をお迎えすることになった。織田教授は、これまでも非常勤講師として本学へ多年御出講いただいたし、いまさら改めて紹介するまでもないが、長らく京都大学文学部史学科地理学の主任教授を勤められ、関西地理学界の大本山として活躍してこられた。本年三月京都大学名誉教授となられ、本学に來任されたのである。さらに地理学には新進気鋭の青木伸好専任講師を迎えた。青木講師はこれまで京都大学教養部助手を勤められ、特に地域論を専門としておられる。このような充実の反面、服部昌之助教授は、やむをえない割愛要請により大阪市立大学へ移られることになった。またことにおしまれてならないが、従来どおり本学でも歴史地理の授業を御担当頂いている。◇東洋史では、藤善真澄助教授を神戸女子大学から迎えることができた。藤善助教授は、唐代の仏教史および文学・思想などを専攻されている。その著『安祿山』（人物往来社刊）は名著の誇れが高いが、御本人は決して安祿

山に似た人柄ではないから御安心下さい。

◇今夏のニュース。韓国古代文化学術調査団（団長横田健一教授）が、8月21～28日、釜山・慶州・大邱・高靈・扶余・公州・ソウルなどの各地を訪問した。参加者は、日本史が柴田実・横田健一・有坂隆道・蘭田香融・網干善教、地理学が宇田米夫、国文学が吉永登の諸先生、および卒業生では二宮正彦（前本学講師）・斉藤孝（岡山大学助教授）はじめ駒井功・泉森皎・菅谷文則・吉村雅博・榎本誠一・浅井允晶・高橋隆博・奥田豊・河上邦彦、ほか学生二名、特別参加の秋山日出雄榎原考古学研究所員を加え、総勢二十一名。その成果の一部はすでに新聞紙上にも伝えられたが、明春には横田健一編『韓国史跡の旅』（新書判、創元社刊）が参加者一同の執筆によって刊行される由である。乞御期待！

◇五か年にわたつた関西大学下室・松原ダム総合調査の歴史班は、横田健一教授・網干善教助教授が担当され、大きな成果を収めたことはまた新聞紙上などにも報道されたところである。去る七月、ダム設置に生涯をかけて闘われた室原知幸氏の収集された文献が御遺族によって本学へ寄贈され、「室原文庫」として長く保存利用されることとなった。

執筆者紹介（執筆順）

鶴崎裕雄 帝塚山学院高校勤務

（本学大学院博士課程在学）

塚口義信 大学院修士課程在学

水沼夫左栄 羽衣学園勤務

橋本征治 史学科助手（地理学）

史 泉 第四十三号

五百円（千30円）

昭和四十六年九月三十日發行

大阪府吹田市千里山

編集兼

発行者 関西大学史学会

振替大阪二六〇一六番

代表者 原 弘二 郎

印刷所 京都市南区東九条西岩本町八
大宝印刷株式会社

史 泉

第四十一号 昭和四十五年十二月

伊勢神宮の成立……………上井 久義

延喜式「祭日」条に関する一試論……………二宮 正彦

宇多天皇尚侍藤原淑子の円成寺について……………波多野忠雅

懷徳堂学派の経済思想……………井上 実
—とくに中井竹山と山片蟠桃の経済思想について—

古い手紙と文書あれこれ(5)……………末永 雅雄

昭和四十四年度史学科卒業論文題目

昭和四十五年度史学科関係授業科目

史 泉

第四十二号 昭和四十六年三月

三上諦聴教授追悼号

巻頭 三上諦聴教授 写真

三上諦聴君を悼む……………原 弘二郎

三上諦聴教授略歴および主要著作目録

漢の中郎将・校尉と魏の率善中郎将・率善校尉……………大庭 脩

空海の唐文化将来についての二、三の考察……………沢 昭夫

長崎貿易における江・浙商と閩商……………松浦 章

悼 三上先生

死面(さわあきお)……………三上先生に寄せて(山口耕一)
お別れの言葉(山岸徹夫)……………三上先生を悼む(上野正芳)